

(財)エンジニアリング振興協会 地下開発利用研究センター

〒105-0003 東京都港区西新橋 1-4-6

TEL 03-3502-3671(代) / FAX 03-3502-3265

ホームページアドレス ; <http://www.ena.or.jp/GEC/>

E-mail アドレス ; gec-adm@ena.or.jp

第 229 号/2008.10

Index

■第 2 回 運営会議 報告

■第 2 回 研究企画委員会 報告

(財)エンジニアリング振興協会設立 30 周年記念

■エンジニアリング シンポジウム 2008 開催案内

■地域振興構想研究会 報告

■退任のご挨拶

■会員の皆様へのお知らせ

□第 310 回サロン・ド・エナ開催のご案内

■第 2 回 運営会議 報告■

平成 20 年度の第 2 回運営会議が 9 月 19 日(金)15 時 30 分より、当協会 6 階会議室において開催されました。小澤専務理事ならびに入澤常務理事の挨拶がなされた後、小野 武彦委員長(清水建設㈱代表取締役副社長)の挨拶がありました。引き続き、経済産業省 製造産業局 国際プラント推進室 和泉 章室長の来賓挨拶の後、小野委員長の司会により議事が進められました。

当日の会議では、研究企画委員会での審議結果に基

づき、次の議題について審議及び報告がなされ、いずれも承認されました。

議題 1 : 前回運営会議議事録の確認

議題 2 : 平成 21 年度補助金要望について (審議)

議題 3 : 平成 20 年度事業進捗状況について(報告)

議題 4 : その他

次回の平成 20 年度第 3 回運営会議は、平成 21 年 3 月に開催予定です。

■第 2 回 研究企画委員会 報告■

平成 20 年度の第 2 回研究企画委員会が 9 月 9 日(火)10 時 00 分より、当協会 7 階会議室において開催されました。入澤常務理事の協会挨拶、田代 民治委員長(鹿島建設㈱専務執行役員、土木管理本部長)挨拶の後、田代委員長の司会により議事が進められました。

議題は以下のとおりです。

議題 1 : 前回研究企画委員会議事録の確認

議題 2 : 平成 21 年度の補助金要望について (審議)

議題 3 : 平成 20 年度 事業進捗状況について (報告)

議題 4 : その他

次回の平成 20 年度第 3 回研究企画委員会は、平成 21 年 3 月に開催予定です。

エンジニアリング振興協会設立 30 周年記念

■エンジニアリングシンポジウム 2008 開催案内■

エンジニアリング産業の原点と本質を問う ～ 地球的規模の課題克服に向けて ～

開催日 : 2008 年 11 月 5 日 (水)・6 日 (木)

場 所 : 日本都市センター会館

主 催 : 財団法人エンジニアリング振興協会

後 援 : 経済産業省

協 賛 : (独)日本貿易振興機構 / (独)新エネルギー・産業技術総合開発機構 / 日本機械輸出組合 /

(社)海外建設協会 / (社)海外コンサルティング
企業協会 / (社)化学工学会 / (財)機械振興協

会／(社)日本機械工業連合会／(社)日本産業機械工業会／(社)日本能率協会／(社)日本プラント協会／(社)日本プラントメンテナンス協会／(NPO)日本プロジェクトマネジメント協会

◆お申し込み方法：

当協会のWEBサイト(ホームページ)から、お申し込みください。(<http://www.ena.or.jp>)

WEB サイトの受付登録画面は個人受付専用です。複数一括の申し込みをされたい場合は、恐縮

ですが、「複数申し込み用紙」から用紙をダウンロードし、e-mail (sympo-ad@ena.or.jp)にてお申し込みください。

また、社内へのご案内にもこのWEBサイトをご利用ください。「参加券」は、参加費振込確認後お送りします。

◆申込〆切：2008年10月23日(木)

◆参加費：シンポジウム&交流会とも
15,750円(消費税込み)

◆プログラム

11月5日(水) 9:30 開場

時間	3Fホール
10:00	開会挨拶 (財)エンジニアリング振興協会理事長 竹内 敬介 (日揮㈱ 代表取締役社長) エンジニアリングシンポジウム2008 実行委員長 丸川 和久 (東洋エンジニアリング㈱ 代表取締役副社長)
11:35	招待講演 「技術でリードする新日鉄のグローバル経営」 三村 明夫 新日本製鐵㈱会長
	昼 休 み
12:50	特別講演 「10年後の世界都市東京」 14:10 安藤 忠雄 建築家、東京大学名誉教授
	コーヒープレイク
14:50	パネルディスカッション：『エネルギーの未来への展望とエンジニアリング産業への期待』 コーディネーター 橘川 武郎 一橋大学大学院教授 パネリスト 大宮 秀一 出光興産㈱副社長 16:50 パネリスト 木村 滋 東京電力㈱副社長 パネリスト 十市 勉 (財)日本エネルギー経済研究所専務理事

11月6日(木) 9:30 開場

時間	5階A会場 (エンジニアリングの魅力)	3階B会場 (地球を救うプロジェクト)	3階C会場 (人類発展への貢献)
9:45	A-1 超大型LNGプラント建設プロジェクト遂行という挑戦	B-1 夕張CO ₂ 炭層固定化予備実験の成果と課題	C-1 未来に古代の技術を伝承できるのか(石工技術)
11:05	小川 博 千代田化工建設㈱ 常務取締役 海外プロジェクト副統括 兼 カタール第1プロジェクト本部長	藤岡 昌司 (財)石炭エネルギーセンター 資源部 石炭ガスグループ長	左野 勝司 飛鳥建設㈱ 社長・石工
	休 憩		

11:20	A-2 我が国の原子力エンジニアリング 技術開発と海外展開について	B-2 天然ガスハイドレート (NGH) による天然ガス輸送の事業化	C-2 100人の村の匠たち
12:40	鈴木 成光 三菱重工業(株) 原子力事業本部 原子力技術センター原子力技術部部長	高沖 達也 NGH ジャパン(株)代表取締役社長	池田 香代子 ドイツ文学翻訳家・口承文芸研究家
昼 休 み			
13:50	A-3 忠別ダムの建設 ～砂礫上に建 設した国内最大級の複合ダム～	B-3 資源制約下の環境エンジニア リングの方向性	C-3 高齢社会の日本、どう生きるか
15:10	許士 裕恭 国土交通省北海道開発局建設部 河川工事課長	中村 崇 東北大学 多元物質科学研究所	三遊亭 らん丈 落語家・町田市議会議員 町田生まれの真打
コーヒープレイク			
15:40	A-4 エンジニアリング産業の生産性 向上についてーその課題と展望	B-4【産学人材交流センター企画】 脆弱な水資源の量と質への 対応：水処理技術の方向性	交流会 会場準備 (15:10～17:00)
17:00	和泉 章 経済産業省 製造産業局 国際プラント推進室長	古米 弘明 東京大学大学院工学系研究科 附属水環境制御研究センター (都市工学専攻) 教授	上記時間帯は交流会会場準備 の為、関係者以外、当会場には 入場できません。

※講師等の都合によりプログラムが変更されることがありますので予めご了承ください。

★交流会：11月6日（木） 17:00～19:00 於）3階 コスモスI（C会場）

皆様のご要望にお応えして、講演終了後参加者相互の交流と懇親の場を設けております。

お飲み物・軽食等もご用意しておりますので、シンポジウムでの問題提起を巡る情報交換、人的ネットワーク
づくりなどに、ご活用ください。講師の方々もご都合の許す限り参加される予定です。

■地域振興構想研究会 報告■

本研究会は、高レベル放射性廃棄物の最終処分事業を推進するため、地域振興のプランの絵姿提示を目的として、経済産業省資源エネルギー庁電力・ガス事業部の研究会として設置されたものです。(座長: 梶山 修、(財)原子力安全研究協会処分システム安全研究所長)

座長を含む有識者6人のうちの一人として入澤常務が委員参加しました。

平成20年5月29日に第1回会議が開催され、9月8日の第3回会議で、総合資源エネルギー調査会 原子力部会 放射性廃棄物小委員会に提出する結論が出されました。

第2回会議において、入澤委員が、「地下空間開発利用の方向」について発表し、報告書の中にも「処分事業の特徴である地下を活用した事業に係わる地域振興プラン」の実例として以下の8事例が取り上げられました。

- ①地下データベースセンター（岐阜県飛騨市）
- ②大谷石採掘跡施設（栃木県宇都宮市）
[地下採掘場跡]
- ③国家石油ガス備蓄「波方基地」（愛媛県今治市）
[地下岩盤貯蔵施設]
- ④CO₂ 地下貯蔵プロジェクト（北海道夕張市）
- ⑤東京電力(株)高輪変電所（東京都港区高輪）
[地下変電所]
- ⑥沖縄やんばる海水揚水発電所（沖縄県国頭郡国頭村）
[地下水力発電所]
- ⑦PASONA O₂（東京都千代田区）
[地下農園]
- ⑧高山祭りミュージアム（岐阜県高山市）
[地下博物館]

なお、本研究会の詳細は、経済産業省資源エネルギー

ギー庁のホームページに議事要旨および、配布資料が公表されていますので、右記の URL をご参照ください。

http://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/k_9.html

■退任のご挨拶■

三宅 勇治（前 技術開発第二部主任研究員）

平成 20 年 9 月 30 日をもちまして、地下開発利用研究センターを卒業することとなりました。

在任中には、NEDO 事業「高効率熱電変換システムの開発」、「革新的熱電発電材料に関する調査」また RITE 事業「二酸化炭素地中貯留技術研究開発」に携わり、多岐にわたる業種、多くの方々にお世話になりました。

2 年半あっという間でしたが、様々な分野の方々と目的の異なる複数のプロジェクトを通して、いろいろ

と貴重な経験をさせていただきました。これまで得られた経験を十分に活かして、今後の新たな業務へ進んでまいり所存です。

これから、また別の機会皆様とお会いするともあらうかと思いますが、引き続きご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

皆様の益々のご健勝を祈念申し上げます。

誠にありがとうございました。

（平成 20 年 9 月 30 日退任）

■会員の皆様へのお知らせ■

□第 310 回サロン・ド・エナ開催のご案内

日 時：平成 20 年 10 月 15 日(水)17:30～20:00 （於：当協会 6 階 CDE 会議室）

テーマ：「サハリン 1 プロジェクト」ー原油パイプライン完成までの軌跡ー

講 師： 青山 伸昭 殿 新日鉄エンジニアリング株式会社

海洋・エネルギー事業部 エネルギーユニット長

講演要旨：我が国は石油の供給をほとんど中近東に頼っているため、エネルギー資源の安定供給に対する地政学的リスクは高い。昨今のエネルギー資源価格高騰により、ますますそのリスクは高まっている。そうしたリスク低減のためにも、我が国のすぐ北にあるサハリンの石油・天然ガス資源の早期開発が望まれているところである。

我が国は、約 30 年前から、サハリン石油・ガス開発（SODECO）社を通じて、サハリン 1 の石油・天然ガス開発に参画しており、サハリン 1 の開発の実現は長い間の夢であったが、遂に 2006 年末に実現され、我が国への原油の輸出も開始されている。その実現のために、講師の率いるプロジェクトチーム（※）が、サハリン島北東部で生産された原油をサハリン島を東西に横断し、間宮海峡（タタール海峡）を渡って大陸側の出荷基地（ハバロフスク地方デカストリ）まで達する総延長 270km の国際基準でのパイプラインシステムの建設を行った。

プロジェクト遂行に際しては、事業主のエクソン社の厳しい基準・スペックを守りつつ、ロシアのサブコンを起用し、安全、品質、環境に最大限の注意を払いながら、最終的に目標工期内に完成させることが出来た。

本講演では、現地でのパイプライン敷設工事の陣頭指揮を執られた講師に、その実現に至るまでの経緯と、その間に遭遇した困難とその対応策・チャレンジした事柄などについて、事例を交えて語って頂く。（※）：同プロジェクトチームは、平成 20 年度エンジニアリング功労者賞を受賞します。（講演終了後、立食パーティーを行います。）

申込要領：ホームページまたは、FAX で事務局へお申し込み下さい。

地下開発利用研究センター 事務局 中村（TEL:03-3502-3671/FAX:03-3502-3265）